

シニア委員会：シニアナイターリーグ開催中

シニア委員会

県内シニアチームを対象として、シニアナイターリーグを始めました。昨年度に40歳の部(8チーム)で始め、要望により今年度から50歳の部(4チーム)を加え、月に1・2回、週末の夜、ビッグレイクにて開催しています。

シニア層は、動き盛りでもあり土日忙しく、また日中は指導者として忙しくされていることもあり、週末のナイターでの開催が好評です。

まだまだ気持ちは若く激しい接触プレーもあり、そこはシニア層でもあり、事故に繋がらないようシニア特有のルールを用いて、運営しています。

シニア委員会発足時からの目標である県シニアリーグに向けての一步となりましたので、暖かく見守って頂ければ幸いです。

来年度、参加の希望があるチームは、協会 シニア委員会まで気軽に問い合わせください。



何かの役に立てる形でサッカーに携わり続けたい

2級審判員 富江 亮介

私が高校時代、部活動を引退してから3級資格を取得し審判活動を始めた切っ掛けはこんな思いからでした。

私が審判資格を初めて取得したのはサッカー部に入学した高校1年生の時でした。

この時は1年生部員の数人が4級資格を取得する必要があったので、渋谷講習会に参加した記憶があります。(笑)ただ次第に、『審判ってなんか面白いかも』と感じていたことも、審判員の道を進むことを選んだ1つの理由かなと思います。

そこから審判活動をしていく中で、ファウルかどうかの見極めなど、様々な場面において上手い出来ないことや難しく感じる事が多々ありながらも、素晴らしいプレーを一番近い特等席から見れる審判活動にのめり込み、今日まで審判活動を続けてきました。

ただ、一度だけ審判活動を続けることに迷いが生じた出来事がありました。

それは、2級昇級実技テストで不合格となったことです。2級審判員になるためには、競技規則テスト、体力テスト、実技テストの3つの



テストにそれぞれ合格する必要があります。

競技規則と体力テストは合格していたので、実技テストに合格すれば2級審判員になれると意気込んでいましたが、不合格結果を受けて、辞めようかとも考えましたが、そこで辞めなかったのは、冒頭にある思いがあったからでした。

そこから、再チャレンジで無事2級審判員になることができ、現在は2級審判員の中のカテゴリ3担当として、主にU-18プリンスリーグの主審などを担当させて頂いています。

もちろん、審判員である以上、役に立つということは目立つということではなく、選手が安心安全に気持ちよくプレーをしてもらえる環境を黒子として支えることだと考えています。

そのために、これからも自身の長所を活かしながら、自身の課題を一つずつ改善していき、そういった理想の審判員であり続けるために頑張っていきたいと思っています。



滋賀FAコーチ就任の挨拶

滋賀FAコーチ 森村 紀夫

2021年に滋賀県サッカー協会の理事会の承認を受け、2022年4月より梅田技術委員長のサポートの下、滋賀県FAコーチ(技術担当専任者)としての活動がスタートしました。私自身はこれまでにプロ選手の経験がありません。大学生時代よりスポーツ少年団の学年担当コーチから指導者としての活動を始め、中学部活動の外部コーチを経て、近年は2種年代の高校サッカー部のコーチとして活動してきました。FA事業に関しましては、早くからトレセン活動に参加させて頂き、これまでも本当に多くの選手や指導者の方々とのお会いの中で私自身が成長させて頂きました。ありがとうございました。

FAコーチの業務として、①指導者養成 ②育成 ③普及 ④登録指導者のフォロー／登録チームの巡回指導 ⑤差別・暴力・暴言の根絶 ⑥女子 ⑦学校部活動支援 ⑧トレセン活動の整備、などがあります。4月から数ヶ月が経ち、まず心がけたのは各種別や各カテゴリーの活動場所に足を運び、現場の指導者の

方々や選手とコミュニケーションを図ることで、状況の把握に努めようと思いました。しかし恥ずかしながら私自身、未知なことが多いと気付きました。そこで、滋賀県の先輩方が築いてこられた滋賀県サッカーの歴史や過程、県内の様々なサッカー環境について教えていただき、現状を把握すること、FAコーチとして求められることを理解することからだと、改めて思いました。また、同時にものすごい速さで変化していく現代サッカーの流れを分析し、滋賀県の社会環境の変遷に合わせて今やるべきこと、3年後、さらには10年後を見越して先手をとっていきたいと思っています。

FAに関わる全ての方々に助けをいただいていることに感謝の気持ちを持ち、やりがいと責任を認識しながら、「滋賀のフットボールファミリーがサッカーで幸せになる」ことを目指して、今後も現場で関わる皆様と一緒に力を合わせて取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

FIFA U-17ワールドカップ インド2022 U-17女子日本代表 (2022.10/11~10/30)

監督：狩野 倫久氏 (SAGAWA SHIGA) フィジカルコーチ：山田 庸氏(びわこ成蹊スポーツ大学) の2名がチームスタッフとして出場されます。

Soccer News SHIGA

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地 TEL:077-585-0982 FAX:077-585-0983

2022.10 No.65

発行 公益社団法人 滋賀県サッカー協会
責任者 専務理事 福島 隆志
shigafa@oregano.ocn.ne.jp
https://www.shigafa.com/

手を取り合って、一步一步着実に

公益社団法人 滋賀県サッカー協会(SFA) 会長 藤澤 輝彦



長く世界中で続くコロナ禍、感染拡大が第7波に入り予断を許さない状況が続いております。そのような状況下で、11月から12

月にかけて、2022FIFAワールドカップがカタールで開催されます。ご承知の通りすでに出場を決めている日本代表が、前回大会のベスト16、決勝トーナメント1回戦を突破し、さらに大きく飛躍をされることを願うところです。私たち滋賀県サッカー協会といたしましても、サッカーファミリーの一員として一生懸命応援したいと思います。

さて、滋賀県サッカー界の現状をみた時に、Jリーグや日本代表の試合、国際大会を開催できるサッカースタジアムがないという大きな課題がございます。またJリーグやWEリーグ、なでしこリーグに加盟するチームの誕生がまだ実現しておりません。しかしながら、選手の育成については滋賀県の各種別・委員会、各連盟の指導者や関係者の皆様方の多大なご尽力により全国的に高く評価をされています。これはまさに滋賀県のサッカー界が全国に向けて誇れることと確信しております。

2025年には滋賀県で第79回国民スポーツ大会および第24回全国障害者スポーツ大会が開催されます。こ

の二つの大会の成功に向けて、滋賀県サッカー協会では「SFAビジョン」の「サッカー競技の普及、発展を図ると共に、県民の豊かなスポーツ文化の振興、心身の健全な発達に寄与する。」という理念のもと、滋賀県サッカー協会の関係者がしっかりと協力し、全力で努力していく所存であります。また、前名誉会長の松田保氏や前会長の森津陽太郎氏が継続してこられた「産官学民が一体となって諸課題を解決する」ことを、確実に引き継いでいきたいと考えております。

滋賀県の誇れる育成を基盤におきながら、サッカースタジアムやJリーグ・WEリーグ・なでしこリーグ加盟チームの誕生などに向けて、また2025年に向けて、各種別・委員会や各連盟の皆様方と手を取り合って、一步一步着実に取り組んで参ります。

最後になりますが、サッカーが広く県民の皆様々に愛されるためにも、「常にフェアプレーの精神を持ち、国内や世界の人々と友好を深め、広く社会に貢献する。」をどんな時も意識しながら取り組みを進めたいと考えております。

今後とも、ご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和4-5年度 公益社団法人 滋賀県サッカー協会 役員

名誉会長 森津陽太郎	常務理事 奥田 援史	理事 石田 和成	理事 改田 俊次
会長 藤澤 輝彦	光吉 英宣	吉田 和弘	坂尾 美穂
副会長 前田 康一	橋本 猛秀	藤本 計之	大谷 未央
	理事 増田 一博	大谷 浩志	監事 増田 義行
	中島 浩之	杉本 聡	渡邊 建一
	岩崎 崇	鳥家 浩司	規律・裁定委員長
専務理事 福島 隆志	半田 央人	梅田 英幸	高田 和則
	川西 俊貴	澤 大輔	
	泉 憲舟		

天皇杯JFA第102回全日本サッカー選手権大会

MIOびわこ滋賀

MIOびわこ滋賀(滋賀県代表) VS 環太平洋大学(岡山県代表)

2022年5月22日に布引グリーンスタジアムにて環太平洋大学と天皇杯1回戦を戦いました。

相手は大学生という、事もあり、運動量豊富に試合を展開され非常にタフなゲームとなりました。

滋賀県大会決勝も大学生相手の試合だった事で対策はしっかり立てた中で臨んだゲームでしたが早い時間に先制点を与えてしまい、縦に早く仕掛ける相手のペースで試合が進んでしまい前半は我慢の時間が続きました。

所々MIOらしく細かいパスで相手ゴールに迫るものの決定機を多くは作れずにはいましたが、前半終了間際にセットプレーから

⑩秋山駿が合わせて同点にします。後半開始から④斎藤→⑨西口を投入し、サイドを起点に相手ゴールに迫り、実際に右サイドを起点に攻勢に出るシーンが増えました。

その後は67分に⑩秋山→⑩高見、⑩小口→⑩山内をピッチに送りこみ90分での決着を目指し攻勢に出るものの、環太平洋大学の守備も堅くチャンスが作れず焦りが見えてきました。

更に75分⑩西田→⑩長谷川、87分には⑩橋本→⑩長島を投入しゴール前に早



くボールを入れるサッカーに切り替え、ゴールへの執念を見せるものの最終的にはゴールは奪えず延長戦に突入しました。

延長戦はお互いに運動量も落ち、前に人数をかけられない為お互いがカウンターを狙う展開となりチャンスもなく時間だけが経つような試合展開でした。

101分には交代で入った⑩長谷川が負傷し⑩早矢仕が投入されるなどMIOとしては攻撃に出たい中でアクシデントにも見舞われるなどテンポが上がらず苦しい時間が続きます。

そして延長後半110分、PK戦突入が濃厚かと思っていると、環太平洋大学17田口選手に一瞬の隙を突かれ勝ち越しを許してしまい結局これが決勝ゴールとなり我々は天皇杯の1回戦で姿を消す事になってしまいました。

油断もなくしっかりと戦った結果ではありますが、滋賀代表として出場した大会において1回戦で敗退した事は非常に悔しく思っています。

来年も是非滋賀県大会を勝ち抜き、今年の悔しさを晴らせるよう日々努力を重ねて参ります。

様々なご理解ご支援ありがとうございました。

インターハイ「躍動の青い力 四国総体2022」を終えて・・・

草津東高校

【結果】7月24日 1回戦 草津東 1-5 市立船橋(千葉県代表) <鳴門・大塚スポーツパーク球技場>

7月24日より開催されました、令和4年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)へ4年ぶり14回目の出場となりました。大会前は、新型コロナウイルス感染症第7波による影響で、感染者や濃厚接触者がチーム内でも増え、不安な毎日を過ごしました。しかしながら、大会直前までには体調不良者もなくなり、無事に大会へ臨めることとなりました。

1回戦は、鳴門・大塚スポーツパーク球技場において、千葉県代表市立船橋高校との対戦でした。市立船橋高校は、インターハイで最多優勝を誇り、現在プレミアリーグ(EAST)に所属している日本高校サッカーを牽引する強豪校です。苦戦を強いられるのは予想されましたが、アグレッシブに攻める姿勢を示しながら戦うことを選びました。試合展開は、先制されるも、サイド攻撃で一時間同点に追いつきましたが、相手の攻撃陣を抑えきれず、失点を重ねてしまい、悔しながら初戦敗退となりました。

強豪相手に少し堅さはありましたが、勇敢に戦ってくれた選手たちに感謝しています。日々の学校生活の中で、文武両道を貫き、自己を高める努力をして全国ベスト8以上目指してきましたが、力が及ばせませんでした。今後、このチームは秋季総体の優勝を目指し、全国高校サッカー選手権大会へ出場できるように、トレーニ

ングをしていきたいと思います。最後になりましたが、滋賀県サッカー協会、滋賀県高体連、滋賀県競技力向上対策本部、小さい頃から指導して下さった指導者、草津東高校サッカー部を応援して下さっている皆様の多大なるご支援をいただき、誠に感謝しております。この全国大会の経験活かし、更なる成長をしていけるように頑張っ参りますので、引き続き応援よろしくお願ひ致します。



JFA 第9回全日本U-18フットサル選手権大会を終えて

近江高校

近江高校は、関西地区代表として2年連続2回目の出場でした。今大会は、8月4日から7日までの期間で三重県津市にあるサオリーナにて開催されました。

大会1日目、予選リーグで飯塚高校(福岡県)と対戦し7-4で勝利、大会2日目、高川学園(山口県)と対戦し7-4勝利、藤井学園寒川高校(香川県)と対戦し5-7で敗戦しましたが、グループリーグ2位で決勝トーナメント進出となりました。大会3日目、決勝トーナメント1回戦は関東地区第1代表のベスカドーレ町田U-18(東京都)との対戦でした。町田は、Fリーグの下部組織でフットサル日本代表の選手もいる、今大



会の優勝チームでした。1-7で敗れはしましたが、選手たちは最後まで力を出し切ろうと奮闘してくれました。

大会を通して、チームスローガン「Be Pirates」のもと、勝利のために泥臭く戦い、近江高校らしく一戦一戦、最後まで力強く戦ってくれました。その結果の2年連続ベスト8です。素晴らしい大会だったと思います。

最後になりましたが、大会出場に際しまして、滋賀県サッカー協会を始め多くの方に応援やサポートして頂き、このような貴重な経験が出来たことを心より感謝申し上げます。

JFAバーモンドカップ第32回全日本U-12フットサル選手権大会

メンチローゾ滋賀 選手メッセージ

バーモンドカップ全国大会

メンチローゾ滋賀 三輪 万葉

僕たちのチームは2勝1敗で予選敗退でした。僕は県予選は怪我で全然出れなかったけど、チームのみんなが全国大会の切符を掴んでくれました。だから僕は全国大会で活躍する事をきめました。

そして全国大会では3試合で4得点する事ができました。

僕は全国大会で色々なチームをみて、強いチームには4つの共通点がある事に気がきました。【決定力、パスの精度とパススピード、攻守の切替、ボールの受け方】です。

4つとも基本的な事ですが、強豪チームは基本的な事の精度が高かったです。

3年間夢見た舞台

メンチローゾ滋賀 山西 悠斗

僕は、3年前3年生の頃にバーモンドのことを知り、出てみたいと思い、日々練習に励んできました。仲間と共に練習するにつれ、夢のようだった大会が近づいてくのが感じられました。そして、県予選を突破しついに一つの夢だった全国出場という夢が叶えられました。

これが叶えられたのは、共に闘ってきた仲間や、コーチのお陰なので感謝しています。結果は残念だったけど、この悔しさをバネに今後のサッカー人生に活かしていきたいです。

バーモンドカップ全国大会に出場して

今回、チームとしても、自分としても初めてのバーモンドカップ全国大会への挑戦でした。

滋賀県代表として参加し、結果は予選で敗退してしまいました。が、とても良い経験になったと思います。

まず初戦の第一試合、二試合と勝ち、自分も得点ができて嬉しかったです。予選突破まであと一勝というところで、次の日、群馬代表に負けてしまいました。予選敗退で終わってしまったことをとても悔しく思います。やはり全国は攻守においてとてもレベルが

バーモンドカップ全国大会に出場して

僕は滋賀県大会を勝ち抜いて、初めての全国大会への出場を果たしました。

出場権を獲得してから会場である東京都の駒沢オリンピック体育館に到着するまでは、うれしい気持ちとワクワク感がいっぱいでした。新幹線と在来線を使い継いで会場近くまで行くとバーモンドカップの旗が遠くからでもわかるくらいにぎやかに飾られていました。

体育館の中では、もうすでに試合が始まっていた。僕は数分だけ立ち見で観ただけで、おもしろい!と声が出ていました。上手い選手がいて白熱した試合が行われていました。

僕もこの中で試合をするんだ!と気合いのスイッチが入り、アップをして試合に臨みました。1試合目、開始から相手は勢いよく始めてきましたが、僕の決めた先制点から初戦という緊張感もとけ、



メンチローゾ滋賀 児玉 智大

高いなと感じました。そして、県大会後、この大会までの間、体調を崩したこともありましたが、無事に出ることができてとても良かったと思います。ここまで来れたのも、支えてくれた、コーチやチームメイト、両親のおかげでもあると思っています。

小学校生活も残りわずかですが、このわずかな時間を有効に活かし、これからも成長して全日で全国大会に行き、今回負けてしまった悔しさをサッカーの場で晴らしたいです。

メンチローゾ滋賀 浅井 結宇

楽しく自分たちのプレーができ7対4で勝ちました。この試合の勝利で自信が持てて、2試合目自分たちの時間の流れを作れて7対2で次の日の3試合目に進みました。この3試合目に勝ったら決勝トーナメントに進めるという大事な試合でした。ですが、結果敗退しました。相手は攻撃も守備も僕たちより上回っていて、しかも楽しんでプレーしていて余計に悔しかった。この試合で僕たちに足らなかったのは一番大切なフットサルを楽しめなかった。攻撃された後も頭を使って取り返す展開を作れなかった。守備面でスキがありすぎた事でした。この悔しさを僕は忘れません。最終日のエキシビジョンマッチであこがれの選手とフットサルできて夢のようでした。僕のこれからのサッカーに大切な経験になりました。この大会を開催してくださってありがとうございました。

第46回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントを終えて

びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部コーチ 石間 寛人

関西地区第3代表として出場した今大会は、2回戦が初戦となりました。相手は中国地区代表の福山大学。緊張による硬さの見える立ち上がりとなりましたが、主将のMF佐々木啓太(4年)、10番を背負うFW石橋克之(3年)の得点により2-0で勝利。

続く3回戦は、得点力のある北信越地区代表の新潟医療福祉大学。立ち上げから攻め込まれる時間帯が続き、右サイドを崩され先制点を許します。しかし、徐々に攻撃の形を作り出し、前半のうちにFW塚目豊(4年)のゴールで同点に追いつくと、後半開始早々にも塚目がミドルシュートを決め試合をひっくり返します。この日2得点の塚目が怪我で交代となるアクシデントもありましたが、最後まで全員で守り抜き、2-1で勝利。総理大臣杯では初となるベスト4進出を決めました。

準決勝の相手は、夏の関東王者である国士舘大学。フィジカルで勝る相手に序盤から押し込まれ、セットプレーから先制点を許



す苦しい展開。その後、ボールを握りながら相手ゴールに迫るも、守備陣の身体を張ったディフェンスに遭い、フィニッシュにはつながらず前半終了。ハーフタイムに立て直しを図り、後半を迎えるも、またもセットプレーから得点を許し、終わってみれば0-4。初の決勝進出とはなりません。

3位に終わった今大会。準決勝で感じたフィジカル面での差は確かにあったものの、我々はそので勝負するよりも、ボールを大事にし、相手のプレスをはがし続けゴールに迫るスタイルを追求し、後期のリーグ戦を通して更に成長し、冬の全国大会であるインカレでリベンジをしたいと思っています。

最後になりましたが、びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部へ日頃からご支援いただいております滋賀県サッカー協会をはじめ、多くの指導者の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。